

佐渡生きものの語り 作品集 2019





朱鷺と暮らす島 生物多様性佐渡戦略 キャッチコピー

佐渡でふれあういのちのつながり

〜人とトキが暮らす島を孫の世代へ〜

みなさんは「生物多様性」という言葉を知っていますか？
生物多様性とは「生きものたちの豊かな個性とつながり」のことです。

私たち人間は、地球という大きな生態系の一員であり、私たちの暮らしは、様々な生きものが関わり合い、得られる恵みによって支えられています。

佐渡の豊かな自然や文化を保全・再生し、佐渡で育まれた多くの生きものと私たちが共生する環境を後世に渡って継承していくために、佐渡市では、平成24年6月に「トキと暮らす島 生物多様性佐渡戦略」が創られました。

佐渡の生物多様性を「知る・守る・使う」ことで、自分たちの子供や孫の代まで繋いでいく取り組みです。

「佐渡生きもの語り」について

佐渡では、「トキが餌に困らないように」を合言葉に、田んぼに生きものが増える工夫をした米づくりに取り組んでいます。これが「朱鷺と暮らす郷」認証米です。

認証米を始めてからは、田んぼに稲の様子を見に行ったとき、生きものにも目が行くようになったとおっしゃる農家さんは、「前より生きものが増えてきたんだよなあ」と嬉しそうな様子でした。

認証米農家は毎年2回、自分の田んぼの生きもの調査をして、記録を残しています。そしてもう一つ、より多くの方たちに田んぼで暮らす生きものを知ってもらうために、川柳や写真、イラストなど自由な表現方法で、佐渡で見つけた生きものたちのことを語る「佐渡生きもの語り」の取り組みを続けています。

ここに作品を寄せてくれるのは農家さんだけでなく、地元のご学生さんや佐渡に来てくれた観光客の方、それから田んぼの環境学習の生徒さんなど様々です。皆さんが、トキがいて、色々な生きものがある、この佐渡のすばらしさを表現してくださいました。

さあ、「佐渡生きもの語り2019」を、どうぞご覧ください！



Photo: S.Saito

川柳部門 グランプリ作品

てくてくと

歩く青田の サドガエル

佐渡の風来坊 (佐渡市)

【選者より】

豊かに茂った佐渡の青田は、サドガエルにとって安全で安心な棲み家であり、のどかにのんびりと歩き泳いでいる。しかしこのサドガエルは作者ご自身のことでもあるでしょう。元気に育っている稲を見回る度に、実りの秋を想い、田圃もそこに棲んでいる。生きものも残し伝えていきたい、という気持ちが伺えます。「てくてくと歩く」という言葉が、大変印象深く佐渡の自然を連想させてくれます。



Photo. M.Oh-Ishii

準グランプリ作品

寒くなり

脂がのるは

ブリと妻

角森玲子

(島根県)

【選者より】

ブリは脂がのるほど美味しくなりますが、妻に脂がのっても手を出さなくなるでしょう。人間とはなんと勝手な生きものでしょうか。



Photo: M. Kawaguchi

イラスト川柳部門
グランプリ作品



中年やまめ (神奈川県)

【選者より】

「えっ？ぼくも家族だよ」って声が聞こえそう…

ファミリーは“家族”ではなく“共生”のことかな

フォト部門
グランプリ作品



「ふくっ、生きカエル」

柳谷和偉 (東京農業大学)

【選者より】

田植え後間もない時期、泳ぎ疲れたのか、それとも天気がよく田んぼの水が温か過ぎて苗につかまって涼んでいるのかわかりませんが、マッタリとした感じが切り取られていて面白いと思いました。



イラスト部門
グランプリ作品

本間凧沙 (佐渡保育専門学校)

【選者より】

日本初ジアス認定の島、佐渡島の象徴トキが、とても丁寧に描かれていて、素晴らしい作品です！



「佐渡^里山^山トキジロー」

準グランプリ作品

ダウンヒル (佐渡市)

【選者より】

佐渡の生命の象徴でもあるトキが、佐渡の地と一体化となっている姿は、私達の願いを表現しているものです。そして大きく広げた翼は、動物も虫も人も生きている万物に希望を持たせてくれます。

川柳部門ノミネート作品

植え時を 春のつがいの トキに聞き

堀卓（福島県）

佐渡の旅 いまこのトキを 朱鷺と生き

千春（京都府）

国中の 佐渡の刈田は 天高し

餌を求めて 朱鷺も舞ひ来る

安田蝸牛（千葉県）

碧天の 渺渺として 朱鷺一羽

佐渡の山河を 後背にして

安田蝸牛（千葉県）

佐渡に来て 朱鷺に出会って 夢かなう

岩井壮介（奈良県）

おけさ柿 食べて夫は 渋み増す

角森玲子（島根県）

もぬけかな サドマイマイの かくれんぼ

竹子デラックス（愛知県）

朱鷺止まる 視線釘付け 時止まる

おおちゃん（埼玉県）

※ノミネート作品とは

選考委員により全応募作品から選ばれた作品です。
そして、佐渡ふれあいアッセまつり・環境フェア来場者
からの投票でグランプリが選ばれました。

バス降りて 生家への径草 いきれ匂う

古里ことに懐かし

ポインタロウ（熊本県）

自然との 共生めざす トキは来た

小林崇（新潟県）

佐渡に生き 佐渡で逝きたい トキのごと

寒梅（栃木県）

なけなしの 小遣いとトキ 減らすまい

だいちゃんZ！（大阪府）

トキめいた 時は令和の 朱鷺の舞

横手敏夫（埼玉県）

トキのため 汗水流す 佐渡の民

本間大翔（東京都）

無限大 ぼくらの田んぼは 宝箱

佐藤碧琉（佐渡市）

朱鷺生きる 継がなくっちゃな 田や畑

泰平楽（神奈川県）

あみとカゴ 老いも若きも 子にもどり

加藤幸男（佐渡市）

万頃ばんけいの 春風笑う 水面かな

斉藤英夫（佐渡市）

手を合わせ トキこないかと 願う孫

笠井豊（佐渡市）

ふるさとを 離れる朝に トキが舞い

祭り太鼓と 母の見送り

三河の空（愛知県）

トキ越えて 棚田の風景 守りたい

ぷーちゃん（大阪府）

棚田では 稲穂お辞儀で ごあいさつ

ぷーちゃん（大阪府）

大亀が 黄色いドレスを 身にまとい

祭行法師（新潟県）

ビオトープ 覗けば虫が 佐渡おけさ

中年やまめ（神奈川県）

あんたより 朱鷺ファーストの 妻という

中年やまめ（神奈川県）

土肥えて 生きもの肥えて 里肥える

梶政幸（千葉県）

トキがとぶ いなほがみのる あきのそら

坂野則夫（佐渡市）

仲良しの トキを見習い いい夫婦

しなやかーる（滋賀県）

棚田から 眺める佐渡の 雄大さ

山田 明（千葉県）

ゆうゆうと 朱鷺が群れなし 飛ぶ佐渡は

ひとに優しい おだやかな島

招き猫（埼玉県）

今はトキ 昔は恋に ときめいた

イナバウアーの白兔（千葉県）

都会から 来たという子と 草原くさはらで

バッタつかまえ 友達になる

Pちゃん（佐渡市）

見てみたい 生きもの調査で サドガエル

見つけてくれた 仲間感謝

たけちゃん（新潟県）

川柳部門 応募作品

朱鷺を見た 思い出花丸 金メダル おおちゃん

星三つ 米食べ朱鷺見て 佐渡ツアー おおちゃん

薄紅の 空舞う朱鷺に 時忘れ カジ

朱鷺育つ 里のお米だ ニッポニー^{いち} カジ

佐渡米の 時到来と トキが舞い 風天勝

トキは今 返納前に いざ佐渡路 カツオ武士

朱鷺守る 自然取り組み よき米に カワサン

佐渡の田に 憧れ抱き 船に乗る きょうちゃん

佐渡の空 トキを探して 上の空 佐渡ンデス

歓迎の 輪もあたたかく 佐渡おけさ 寒梅

周りにいる生きもの
の調べてみるの
じゃー

生物多様性ポイント①

「佐渡市生きもの調査の日」

佐渡市では、佐渡の生物多様性豊かな環境を、市民一人ひとりが理解するために、平成22年6月に「佐渡市生きもの調査の日」を宣言し、毎年6月第2日曜日と8月第1日曜日に、全島で田んぼの生きもの調査を行っています。

農家だけでなく、子ども達や市民も参加し、佐渡の環境を支える「小さな命」に目を向ける取り組みです。



ドクター イキモン

金山の 水が育てる 佐渡の米

寒梅

トキに問えば 佐渡は住みよい 暮らしよい

寒梅

トキの群れ 素朴な佐渡に よく似合う

寒梅

トキを見て 認証米食べ 佐渡ツアー

寒梅

佐渡の自然 トキどきみえる 朱鷺の色

コウヤ

佐渡の四季 トキも私も いいね！する

おでめ

カエルの声 聞こえてくるのが 待ち遠しい

Bluetooth

田の水が ケロケロゲコゲコ 歌い出す

Bluetooth

生きものを 育めるのか この暑さ 日蔭つくる イネに問う (有)セブンスistem

図鑑見ずとも名前言う 生きもの調査 子の成長 (有)セブンスistem

弓の羽に とられたトキが 今を飛ぶ

SADO49

ひつじ雲 見つけたと空 見上げたら

夕日の中を トキも飛び行く

Pちゃん

初夏告げる カンゾウの花 咲き誇り

朱鷺と暮らせる 時は流れる

イナバウアーの白兔

寒暖の 流れが運ぶ 海の幸

イナバウアーの白兔

宝島 行きたい子らと 佐渡の旅

イナバウアーの白兔

夏の田に 能登と佐渡の子どもたち

はしゃぐ声と せみの歌声

こーりん

佐渡島は 自然が多く おもしろい

サークランプラッパー

青田より 吹き来る風 朱鷺が飛び

小佐渡大佐渡 餌をついばむ

佐渡の風来坊

雨待ちの 紫陽花寺に 蝸牛

人恋しくて 足繁く行く

佐渡の風来坊

令和朱鷺 家族そろって 花見する

佐渡の風来坊

トキが生きる 安全な田で 作るコメ

紫苑

トキとコメに よい環境を 人にまで

紫苑

トキの里と 地図が重なる コメの里

紫苑

空にトキ 地にはお米と 愛受けて

紫苑

佐渡の水 相性がいい トキとコメ

紫苑

さどの町 おにだいこで にぎやかだ

しぐらです

羽広げ 瞬時にヘンシン トキ色に

しなやかーる

どんなトキも トキ見ていれば

沸く元気

しなやかーる

生物多様性 ポイント②

「GIAHS(世界農業遺産)」

後世に残すべき生物多様性を保全している農業上の土地の使い方や景観について、FAO(国連食糧農業機関)が認定するものです。

佐渡市は、生きものを育む農法や、各農村集落に継承されている伝統芸能などが評価され、平成23年に石川県能登地域と共に日本で初めて認定されました。

重要じゃぞ!



これからも トキのふるさと 守ろうよ 自販機のお金

今昔の 朱鷺棲む佐渡の 天の川 ライラック

入学の 祝いに旋回 トキ飛翔 ライラック

春田打 休みてトキの 遊ぶ見ゆ ライラック

佐渡島に 緑がいっぱい きれいだな ステイブ

トキが舞う 令和の今も これからも 澄海

目がとまり 時もとまった トキの舞 そよ風

ウチの妻 サドノウサギに 似てきたな だいちゃんぞ！

消費税 よりも増えてね トキの数 だいちゃんぞ！

夢みてる 令和の空飛ぶ トキの群れ だいちゃんぞ！

撮り難し 野生のトキか ブラックホール だいちゃんぞ！

佐渡のお米は
美味しいのぉ



生物多様性 ポイント ③

「朱鷺と暮らす郷認証米」

佐渡では、農薬や化学肥料を
少なくし、環境に配慮した米作
りをしています。中でも、朱鷺
と暮らす郷認証米は、田んぼと
その周囲に生息する生きものの
環境を作り出す「生きものを育
む農法」により栽培されている
お米です。



トキ増えて！ 空でラグビー できるほど

だいちゃんZ！

トキ増える 時代になあれと 願い込め

色紙の「令和」 見入った五月

だいちゃんZ！

本で見た モリアオガエルに 盛り上がる

だいちゃんZ！

令和こそ トキとメダカが 増える世に

だいちゃんZ！

令和初 トキに会うため いざ佐渡へ

だいちゃんZ！

生きものは いろんなとくちよう あるんだな

ジョームズニコラスタカアキ

ぬかるみに 足をとられて サドガエル

竹子デラックス

トキのおれ きもちよさそうに 飛び回る

ちびまる子ちゃん

トキのしま たんぼのめぐみ ヒナのめきらり

ちひろ

佐渡島 トキがいっぱいいて 楽しいな

チョコレート王子

鬼太鼓 空気がいっぺん 佐渡の夜

トキ生まれ 島から外に 出る気なし

米づくり 空から朱鷺に 見てもらう

朱鷺が舞う エコアイランド 月の船

佐渡のトキ 新たな時を 刻むかも

癒されし 自然の宝 佐渡めぐり

早く行こう いきものちようさ 楽しみだ

絶景に トキがとまった 見惚れてた

佐渡の人 みんなやさしい うれしいな

金山は 自然から出た 贈り物

たらい舟 常は出ません 佐渡おけさ

チョコレート王女

貯虎

テクノボー

時

としちゃん

なきうさぎ

なっつぴー☆

夏舟

にゃんころ

ひねた猫

ひねた猫

トキ育て 自然守れば 文化の日

ひねた猫

トキを見て 自然見つめて 時知らず

ひねた猫

ときめくね 夕日に映える トキの群

ひるねする夫

トキを越え たらい船にて サザエ獲り

ぷーちゃん

有名な 牛の生まれは 佐渡の島

ぷーちゃん

米旨し 魚も肉も ときの声

フーマー

さあどうぞ ゆるりはんなり 朱鷺の郷

フーマー

船行けば 朱鷺色の空 佐渡の郷

ふかみどりマン

誰そ彼の 朱鷺の命も よみがえり

雄々しく羽ばたき 未来へ飛ばんと

放夢生人

朱鷺生きる 佐渡は世界の 宝島

羽ばたき歩み 共に進まん

放夢生人

朱鷺生きる 大地・大空 理想郷

人間の生活も 必ず豊かに

放夢生人

朱鷺が舞う 大空めざし また一歩

皆で進もう 心豊かに

放夢生人

朱鷺に見せる 黄金の稲穂 心意気

育て羽ばたき ともに生き抜く

放夢生人

佐渡の町 金のおかげで 活性化

マイケルはる

佐渡島 自然がいっぱい 楽しいな

まじおれ超運

錦秋に 魅入り分け入る 佐渡の山

砂金に触れた ゴールドパーク

マスカット

トキが飛ぶ 佐渡金山を はるか越え

マスカット

妻と行く 金婚記念 佐渡の旅

秋色まとう 「君の名は」跡

マスカット

トキの里 たわわな稲穂 陽が踊る

マスカット

信号は トキ海カンゾウ 指示をする

祭行法師

ダーウインで スターになった コブの鯛

祭行法師

トキは今 天あまが下に よみがえり

祭行法師

やぶかげに 黙って迎える サドマイマイ

祭行法師

佐渡自慢 海にコブダイ 空にトキ

三木首相

ときめいた トキの巣立ちと 佐渡の空

みどり人

トキを見て 心ゆれし 夏のかぜ

メガネ

トキを泊(止め)め 父祖とも集う 佐渡仲間

やーくん

今は亡き キンの思いを この空へ

ゆめさん

佐渡のトキ ひとを笑顔に させますよ

ゆめさん

空へ舞へ 大空高く トキの群れ

ゆめさん

トキよきて 田んぼのエサを たべにきて

よし三

姿見る 出来るかどうか トキの運

ヨシノボリ

探餌する 姿に心 トキほぐし

ヨシノボリ

生きものが いっぱい住む田 旨い米

ろんちゃん

生きものが 育てるトキと いいお米

ろんちゃん

一時^{トキ}も 佐渡の自然は 見逃さず

ろんちゃん

大切な 時^{トキ}を友とし 佐渡の旅

ろんちゃん

田の恵み 一緒に食べる トキと人

ろんちゃん

トキ時は^{トキ} 田んぼで餌を 食べるトキ^時

トキの居る 佐渡はサークルオブライフ

トキの餌 ドジョウどじようと 子ら育て

やったぜ！と 見つけた時の^{トキ} 時の声^{トキ}

垂れる穂に 豊作祝う トキの声

今年また 朱鷺を育む 佐渡の米

イナゴ 少しずつ 大きくなって来たな！

その昔 遠流の島と 想はれず

加茂湖辺りを 今眺むれば

たらい舟 一寸法師が 夢に出る

琴浦は 青の洞窟 想わせる

ろんちゃん

ろんちゃん

ろんちゃん

ろんちゃん

わんわん

葵そら

安達茂

安田蝸牛

安田蝸牛

安田蝸牛

荒磯に 吠えて逆巻く 寒怒涛

尖閣湾の 雪の凍てつく

安田蝸牛

斜交ひに 空を占めたる 天の川

芭蕉の世から何も変はらず

安田蝸牛

照り映える 長手岬の 秋落暉

大海原を 黄金に染めて

安田蝸牛

道遊の 割戸に遺る 露天掘

時代の波は 山をも通す

安田蝸牛

朱鷺が舞う 佐渡の山野に よく映える

安田蝸牛

朱鷺に取り 佐渡は揺籃 青山河

安田蝸牛

トキらしき 影の判別 時かかる

宇田川慧斗

四季により 米も朱鷺も 色変える

榎夏鈴

空を舞う 朱鷺を見ながら 米作る

榎夏鈴

朱鷺色の 空を眺めて 一時間

榎夏鈴

令和初 羽ばたく朱鷺に トキめいた

横手敏夫

トキめいた 令和初めの 朱鷺の舞

横手友江

ときとさぎ どっちがどれか わからない

岡美由紀

「美味しいよ」 黒いダイヤで プロポーズ

角森玲子

いごねりを 味方につけて ダイエット

角森玲子

ズワイガニ みたいに長い 君の足

角森玲子

ブリカツ丼 大漁旗を 持ち帰る

角森玲子

牡蠣食べて 妻が美白に なっていく

角森玲子

帰省する 息子を地酒と 父が待つ

角森玲子

汽水湖で 美味しく育つ 佐渡のカキ

角森玲子

佐渡っ子は 沢根だんごが 離乳食

角森玲子

少子化に 負けるな人と 佐渡のトキ

角森玲子

聴いてみる 原生林の 息づかい

角森玲子

天然は 原生林と お祖父ちゃん

角森玲子

便りない 息子に送る ルレクチエ

角森玲子

睦みあう トキの番に 手を合わす

角森玲子

手を休め トキ飛び空を 妻と見る

笠井豊

トキがいる びっくり体が パラダイス

笠井豊

ああ蜻蛉 佐渡に恋して 赤くなる

梶政幸

トキ舞って 姉妹の喧嘩 ここまでと

梶政幸

朱鷺と鷺 見分けがつかぬ 首かしげ

岩井壮介

佐渡のとき 環境保護にときめき とき色に

岩渕重一

佐渡ヶ島 トキにも人にも あったかい

吉野結菜

生きものの あつさでみんな 夏バテだ

吉良裕紀夫

農作業 生きものふえて うれしいな

吉良裕紀夫

佐渡旅行 朱鷺舞い踊り 星五つ

橋本善男

あらいたの トキ飛びたつまで 我知らず

駒形信雄

佐渡の空 ピンクに染める 朱鷺の夢

原田博之

時を経て 朱鷺の楽園 佐渡島

原田博之

朱鷺が舞う ピンクの空を 描く未来

原田博之

トビウオが フェリー迎える 夏の海

光源氏

何杯も 大王生け捕る 定置網

光源氏

手作業で 佐渡金山も 真っ二つ

光源氏

朱鷺が喰う 島の固有種 サドガエル

光源氏

青い灯で 恋文綴る 蛍イカ

光源氏

ドジョウより お米をもっと 食べたいな

高橋朋輝

カエルとぶ 他より高く 記録越え

高柳光雄

こうべたれ たれた稲穂に すすめつく

高柳光雄

佐渡の海 果てしなくして 真青だ

佐久間政文

佐渡のトキ いねかり終わり えささがし

佐々木陽士

柿の種 ぴりっとからい そこが良い

佐藤青空

コシヒカリ 佐渡で有名 おいしいよ

佐藤青空

佐渡にはね 自然がたくさん いい島だ

佐藤青空

佐渡金山 観光スポット いい所

佐藤青空

村雨が 港見守り 三百年

佐野元春

トキめいた 佐渡の魅力に 胸躍る

坂本和美

こしひかり トキのなのよに たかくなで

坂野則夫

すいでんに カエルドジウと トキのエサ

坂野則夫

おいでよと 佐渡の空には トキが舞う

山下司

鬼太鼓 トキと共に まいあがる

山岸美晴

生き物お 令和ハグ組む佐渡の自然 き令だ和

山口和也

トキ生きる 佐渡の自然の 奥深さ

山田明

メルヘンの 世界で過ごす 佐渡のトキ

山田明

佐渡へ来て 良かった島の 大自然

山田明

青い空 佐渡のお宝 トキが舞う

山田和彦

トキがいる ああ違った サギだった

漆本朋幸

朱鷺を見て 平和に過ごす 佐渡の人

朱鷺太郎

いつときの 出会いよ 田んぼ 渡るトキ

小野みふ

稲穂越え トキ追いこころ 解き放つ

小野みふ

薫風や 田んぼアートの トキ笑ふ

小野みふ

オラのトキ米 今年の出来は ちときになる 余所の稲

小林三四吉

トキは別 手たたきおいはらう アオサギの群

小林三四吉

あつ朱鷺だ 声がきこえて みな見上げ

招き猫

朱鷺が舞う 自然まぶしい 佐渡島

招き猫

日本のそらを 舞い飛ぶ朱鷺めざし

育てる方に 感謝する日々

招き猫

トキを見て 時をわすれ 陽が沈む

須田秀行

たらい船 朱鷺の話で 盛り上がる

西村嘉浩

みあげれば 夏のひざしが 目にささる

斉藤英夫

苗踏まれ 起き上がったところを また踏まれ

トキが勝つか 私が勝つか！

斉藤孝夫

また佐渡で なじみのときに 会いてえなあゝ

石川博康

人情の 深さを胸に 佐渡帰り

占部耕三

歓迎は 能の謡に 佐渡おけさ

占部耕三

佐渡の良さ 詩情尽きない 奥深さ

占部耕三

今年の夏 稲茎の陰 ひと休み

川上祥雄

温暖化 田んぼの畦には 江が良いね

川上澄子

中干しや 休耕田にて 朱鷺採餌

川上澄子

トキも好き 森のポツンと 一軒家

泰平楽

トキ好きな 秘境地わんさ さすが佐渡

泰平楽

朱鷺の声 そうだったのか 佐渡で知り

泰平楽

田くんぼ 新婚旅はと 朱鷺が鳴く

泰平楽

見上げると トキがはばたく 佐渡の空

大山達也

トキがいる それだけで合格 自然保護

丹内哲郎

トキが舞う 数ある自慢は 佐渡の空

丹内哲郎

経済と くちばし回す サドツキー

池澤佑

鶴と亀 トキドキ行きたい ニツ亀

竹田秋治

ふれあえば とけあう心 佐渡の人

竹田秋治

人と心 自然と出会う 佐渡の旅

竹田秋治

トキの好きな どじょう時々 共に食べ

中原政人

トキも好き 家族も好きな どじょう食う

中原政人

共倒れ しないためには 共生を

捕り尽さずに 育てる努力を

中村宗一

植生を 壊せば人に 忍び寄る

絶滅危惧種 朱鷺とコウノトリ

中村宗一

生き物を 大事にしよう 後のため

中村宗一

あんたより トキと暮らすと 嫁家出

中年やまめ

いい仲と 噂のトキと 佐渡の人

中年やまめ

やさしいのう^農 ジアス認定 サイト佐渡

中年やまめ

佐渡の人 詐欺を捕獲し トキを保護

中年やまめ

自然との 共存共栄 チーム佐渡

中年やまめ

生きものが おけさを踊る ビオトープ

中年やまめ

生きものの テーマパークの ビオトープ

中年やまめ

農薬も 肥料もあまり 売れません

中年やまめ

ときやとき ああ ときよとき

仲田吉之

風がふき 草木がゆれる 佐渡島の

この風景を 未来へつなぐ

辻口歩実

これからも トキの自然 大切に

定塚愛采

黒や白 いろいろなトキが 飛んでいる

定塚香心

ドライブで 景色より感動！ トキ舞う姿

田村綾子

見ていたい トキまう空を いつまでも

田村莉愛

クモの巣の 餌食になるな ギンヤンマ

渡部義雄

早春の 群がる姿 色さえる

渡部公正

生き物の しょうどうがいは やめようよ

渡辺信弘

4年目の 大佐渡の田に トキよ来い

嶋田眞巳

こしひかり 美味しい新米 トキが舞い

馬場和義

幸運喜 稲といいねを 育ててる

馬場和義

トキが舞い 令和を寿ぐ 黄金色

馬場和義

酷暑にも ヒエにも耐える コシヒカリ

馬川哲雄

水不足 田んぼにトキの 足跡か

馬川哲雄

クアクアと 田んぼアートの 朱鷺が舞う

飯田修

見守られ はばたくときは 佐渡の宝

富永悦子

この自然 いつまで守り とおせるやら

北見好信

熱中症 我救ったのは トラックの影

北見好信

あゝトキよ 止まれと想う 郷の秋

堀卓

美しい 島がふるさと トキ孵る

堀卓

トキ来ると 気づくときには トキたった

本間大翔

ときとんで いきしのさみし しなのよる

木透昭二

手を振って 朱羽見送り 明日へメモ

木立慈雨

佐渡にはね トキがたくさん いるんだよ

野崎悦人

能登の子は よくしゃべるよ おしゃべり上手

野崎悦人

コンバイン トンボやツバメ トキも追う

弥次郎兵衛

南限と 北限交差 花の島

弥次郎兵衛

トキたちの 生き生き佐渡の 夢舞台

柳谷益弘

佐渡へ行き トキを学んだ 3日間

鈴木楓

川柳 応募学校・団体

- ・ 朱鷺と暮らす郷認証米農家
- ・ 東京農業大学
- ・ 新潟大学付属新潟小学校
- ・ 佐渡保育専門学校
- ・ グループホームななうら
- ・ 東京工科大学
- ・ 能登地域の子どもたち
- ・ 佐渡Kids生きもの調査隊

イラスト川柳部門 応募作品



渡会克男



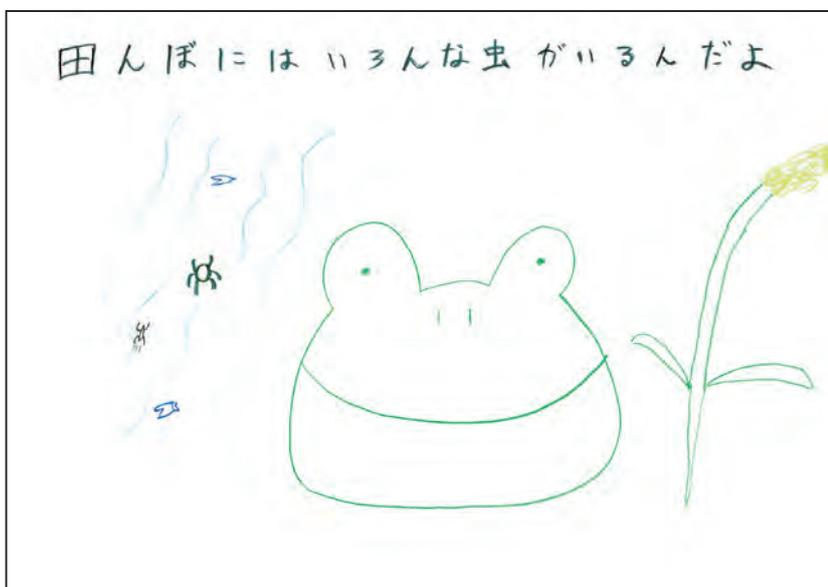
三郎



飯沼春希



和泉茄桜

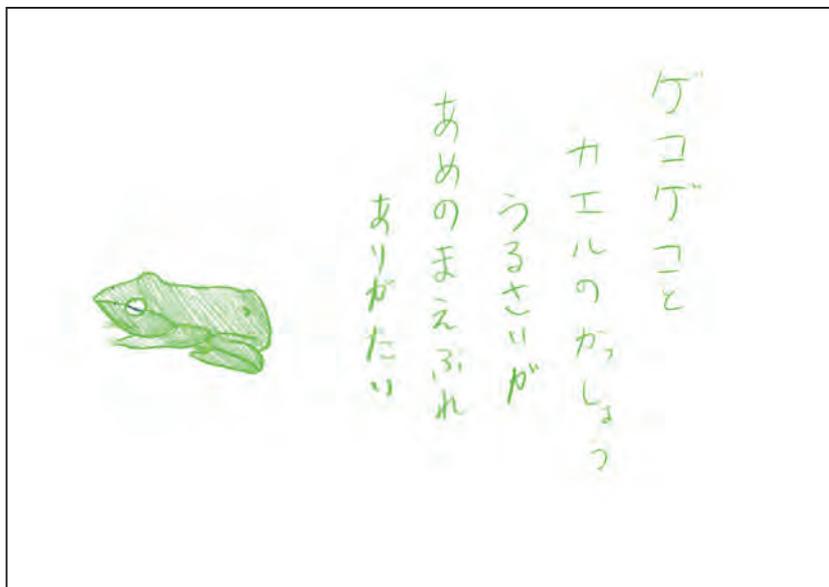


今井碧

佐藤有紗



増家ひかり

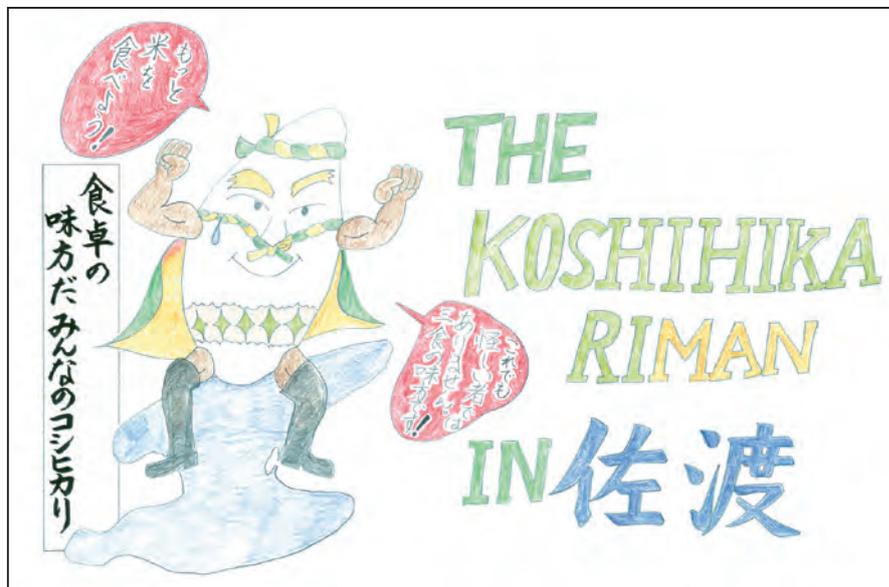


めいちゃん





渡辺栞



宿借浪人

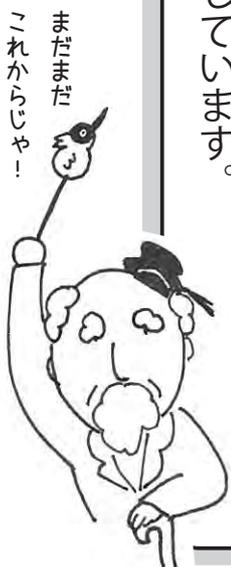
イラスト川柳 応募学校・団体
・佐渡保育専門学校

生物多様性ポイント④
「トキの野生復帰」

昭和56年、野生トキ5羽の一斉捕獲から27年が経った平成20年9月、佐渡の空にトキが再び飛び立ちました。

平成24年には放鳥したトキからヒナが誕生、平成28年には野生生まれ同士のペアから純野生のヒナが誕生しました。

毎年2回の放鳥と、野生下で生まれたトキを合わせ、令和2年1月現在、野生下には約406羽(推定)のトキが生息しています。



イラスト部門 応募作品

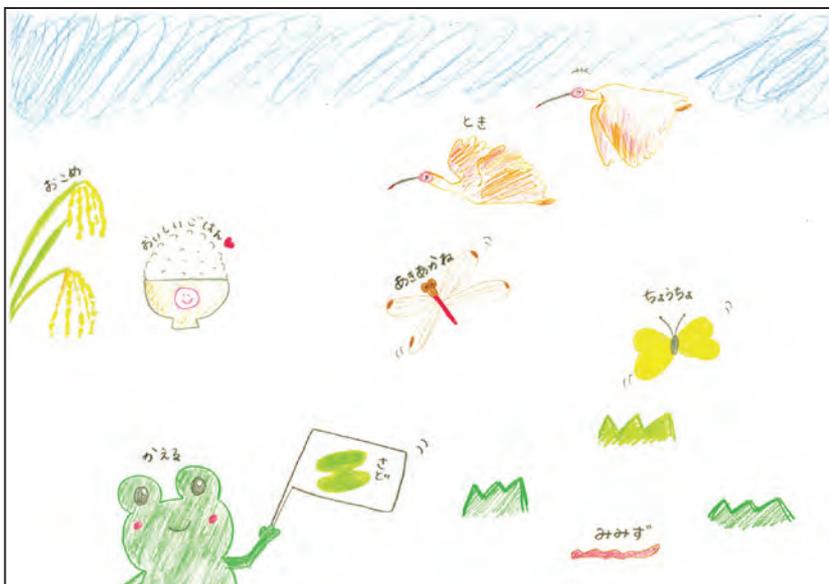


サトガエル

荻沼美幸



加藤美紀



金子麻夢



星野優美



本間詩織



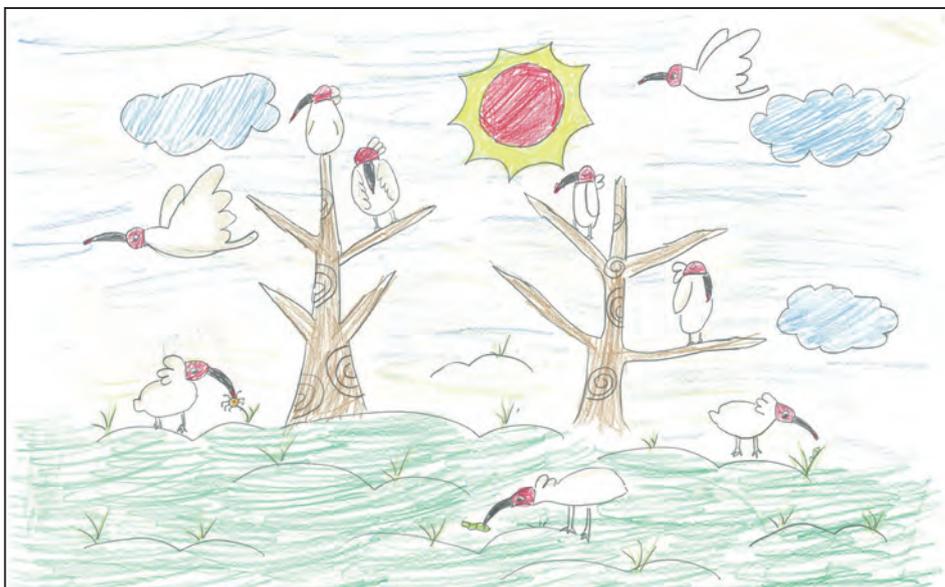
王泽萌



柳昱侗



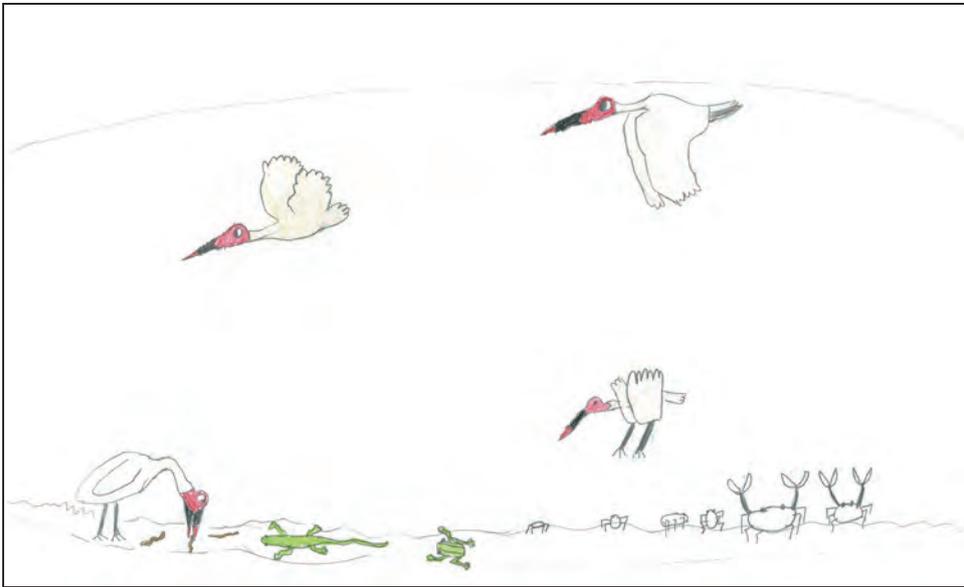
王钧藩



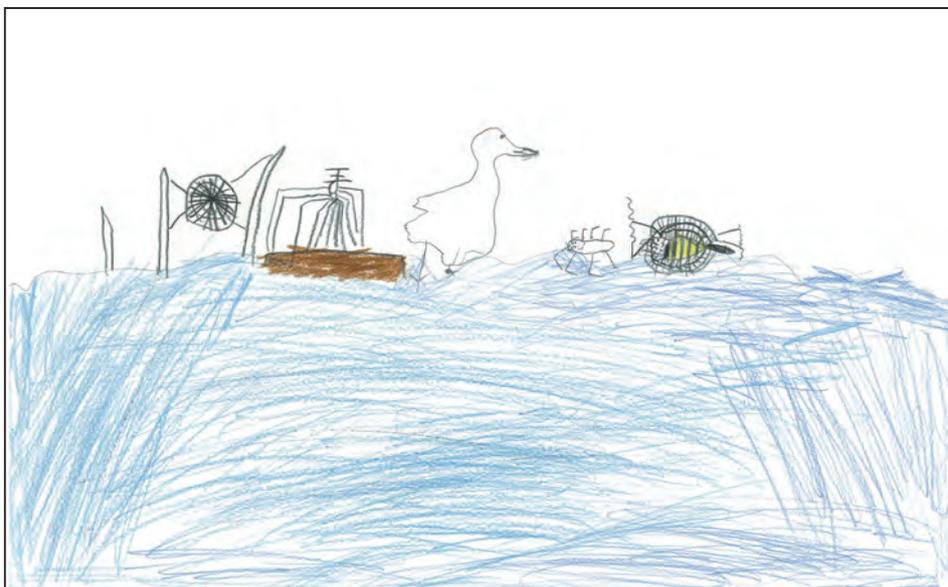
王琪



柳焕宇



孙钰淇



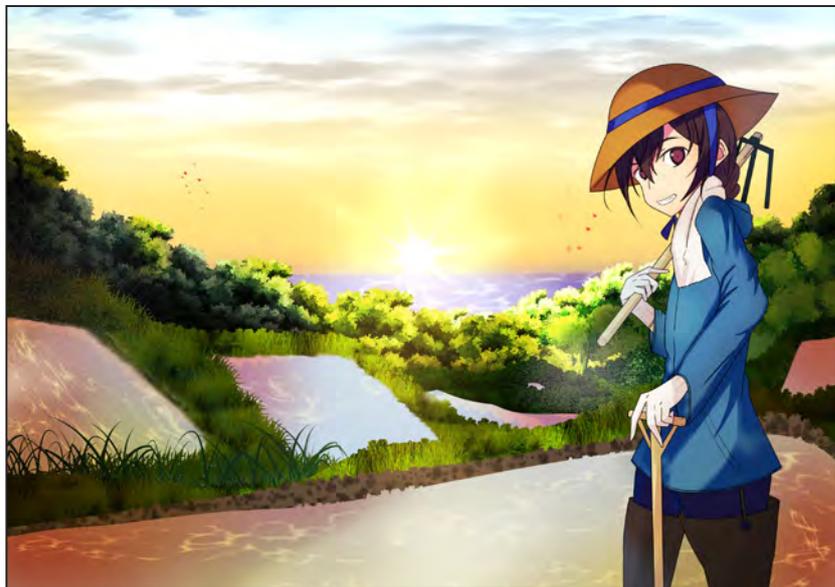
柳焕生



王琥



王珂



白野十裏

イラスト川柳 応募学校・団体
・ 佐渡保育専門学校
・ 青島新世紀小学校
・ 青島銀海小学校
・ 深圳小学校

フォト川柳部門 応募作品

広き空 映す鏡か 田の水面

山本剛志



羽化途中

トンボ見つめる 子どもらの
光をあびろ 広げた薄羽

渡嘉敷彩子



フォト部門 応募作品

「湖界のメツシ」

横小路朝飛



「佐渡の農家を苦しめるザリガニ」

依田稜也





「私はしです」

金子峻士



「躍動」

金子峻士



「休憩中」

吉田玄磨



「北アルプス見えた」

清水麗



「空と君との間には」

山本将平



「生きものの集合住宅（工事中）」

山本将平

エッセイ部門 応募作品

チーちゃんからの贈り物

也末毛止 比呂由幾

「おじちゃん、トキって何?」

普段から仲良くしている隣の家のボクに、あの朝突然そう質問されて、正直戸惑った。

「チーちゃん（本名千尋君^{ちひろ}）、トキは国際保護鳥っていうのになっっている大事な鳥でね…」

「おじちゃん! そんなのボクだって知ってるよ。ボクがフシギなのは、みんながトキばかりダイジにしてるのはなぜかっていうことだよ。」

いつもは穏やかな彼が、興奮しながら訴えかけるように叫ぶ姿にいささか圧倒されながら、私の心の最も深い部分に、小さな針がさ

さったように、かすかに痛く感じた。五歳の千尋君にとって「国際保護鳥だから、トキは大事なのだ」というのは、真に「理屈」以外の何物でもあるまい。言わば、どうしても飲み込むことのできない、かみくだけないキャンディーみたいなものかもしれない。そこで、ひとまずこう問いかけてみた。

「チーちゃんは、トキがなぜ国際保護鳥というのになったかは知ってるかい?」

「数がすごく少なくなっちゃったから!…。」「そうだね。じゃあ、なぜそうなっちゃったかはどうだい?」という私の続けざまの問いに対して、彼は、

「のうやく!」と一言。

「よくそんなことまで知ってたね! すごい

ぞ。」とほめる私に、

「ほかにもネ、トキのおうちになる木をきつたり、バシヨをとったりしてるんだよ、人間が！」

「うん、チーちゃん、いろいろ知ってるんだね、本当に！」と続ける私に、少し苛立ったように彼は、

「人間が、トキにワルさしてるなんて、ぼくいやだよ、おじちゃん！」と叫ぶように言い放った。その瞬間の彼の何とも鋭い眼力めぢからには、大人として、いや大人だからこそたじろがざるを得ない強さがあった。

千尋君の家は、まさに陳を接するかという我が家同様、古くからの農家で、広大な田畑からの恵みに頼って生計を立てている。それこそ、額に汗して、真っ黒に日焼けしながら育てた米や野菜を出荷することで、消費者家庭には喜ばれ、自らも生活の糧を得てきてい

るわけである。そんな農家にとって、トキという鳥は、田に生息するタニシなどの貝を捕食する際に苗を踏みつけたりして、稲の生育に大きな難を及ぼす「害鳥」でもあるというのは、何とも皮肉な話である。しかし、ここで立ち止まって一歩引いて考え直してみると、「害鳥」という呼称は、言わば人間が、自分たちの生活を優先するあまりにつけた身勝手なものに違いない。トキ以外にも、人間は、自分たちに何らかの害を及ぼすなど、都合の悪い面を持つ動植物などを一方的に扱う傾向がある。人間がもつさまざまな優れた力を考えれば、それは、ある意味では当たり前のことと言えよう。しかし、ほんとうに優れた力をもっているのならば、その力の生かし方、何か他にもあるのではなからうか。

「共存・共栄」の道は決して楽なものではなく、それなりの痛みを伴うものであろうこ

とは、想像に難くない。しかし、誰かが何かしなければ、それこそ何も始まらないし、失われゆく生命を見過ごすばかりである。

やはり口で言うほど簡単なことではなからうが、自分は少なくとも「何かできる」・「何かをやるうとする」側の人間でありたいと、強く思う。できることならば、必要な知識や技術を身につけるとともに、それを生かせる志を持ち続ける人でありたい。そして、あの瞬間の、トキを案じ、大人に堂々と問題提起したチーちゃんの眼力めぢからに負けない、「何かできる大人」としての自分づくりに真摯に取り組むことで、彼の期待に応えていきたい。

「チーちゃん！ おじちゃんもきつと頑張るからね！ これからも辛口アドバイスをよろしくね！」

「おじちゃん、『からくちあどばいす』ってなに？」ニコニコしながらも少しげんそうな彼の顔に、改めて「頼もしさ」のようなもの

を感じるおじさんであった。

「今日も良い日になるといいね、チーちゃん。」
「そうだね、おじちゃん。」

今の私にとって最高の友であるチーちゃん。彼との友情が永遠なものであれと、願わずにはいられない。いつかともに肩でも組んで、大空を舞うトキの群れを見上げて、喜び合いながら、一杯酌み交わしたいものである。今は、そんな日が待ち遠しくてしかたない心境のおじさんである。

『チーちゃんからの贈り物』続編

「おじちゃん」との思い出を胸に

私の名前は沢渡千尋さわたりちひろ、十六歳の男子です。

この春高校生になりました。初対面の人からは、名前だけだと女の子に間違われることも少なくないですが、胸を張って「男です！」と言うようにしています。大きな苦難のたえにもなる「千尋せんじんの谷」の「千尋ちひろ」ですから、それ乗り越える力強さや勇敢さをも表す名前だと祖父から言い聞かされてきていて、自分でも結構気に入っています。

今年もまたお盆の時期が来て、家族とともに先祖の墓参りに出かける日となりました。「出かける」と言っても、わが家のお墓は、家のすぐ近くにあるので、生花などを準備するだけで比較的簡単ですが、心を込めて祈ることが大事だという幼いころからの教えを守って一所懸命合唱する私の姿が、毎年そ

の場にあります。ただ私には、わが家とともにもう一カ所必ず参るお墓があります。生まれて間もない頃から、私のことを実の孫のようにならざる可憐がってくれていた隣りの家のおじさんのお墓です。今年のお盆が四回目のお参りになります。自然を愛し、トキのことも一所懸命考えていたおじさんが突然病いに倒れ、ローソクの火が消えるように亡くなったという話を後で聞き、言い表しようもない驚きと悲しみに襲われました。暫くは食事ものを通らないくらいにショックだったと記憶しています。悲しくて仕方ない葬儀も無事終了して、一週間くらいたったある日、おじさんの奥さんが尋ねて来られました。手に持っていた小さな風呂敷包みを私に手渡ししながら、「おじさんからの形見を受け取ってくれる？」とおっしゃいました。何か強く「ドキッ」として、とたんに涙があふれてきました。一番辛いはずの奥さんのことを考えれば堪えるべきとわ

かつてはいても、どうしようもありませんでした。奥さんから慰められながらも、「おっ、おじさんは何か言っていましたか。」と尋ねると、奥さんはおじさんとおなじように優しく微笑みながら、「いつも仲良くしてくれたお礼を言うことと、これは、チーちゃんが持っているのが一番いいんだって伝えてほしいって！」

そう聞いて、一度は何とかとめた涙がまたあふれてきてしまいました。奥さんは、そんな私をしばらくそっとしておいてくれ、一息つけたころあいを見計らうように言葉を継いでくれました。「おばさんもネ、そう思っていたの。これはチーちゃんが持ってくれているのが、一番ふさわしい物だって。」

もう、涙が止まらなくなっていました。ふと気がつく、奥さんが、私の肩を優しく抱いてくれました。奥さんの両目尻にも少し涙が浮かんでいる様子がわかりまし

たが、私にはどうすることもできませんでした。それが悔しくてしようがありませんでした。

おじさんの奥さんが届けて下さった包みを、私はしばらく眺めているだけで、開けて見ることができませんでした。開けてしまうと、おじさんとの思い出がどこかへ消えてしまふよう、何か恐い思いがあったのです。でも、そのうちに思い直しました。これは、おじさんから自分に託された夢のような物だと、意を決しました。

小さな風呂敷包みの結び目を解く時、幼い頃、おじさんからチョウ結びのやり方を習ったことを思い出しました。手先の不器用な私に、優しく教えていねいに、何度も何度も教えてくれたおじさん。今は、あの時のように、二人で協力して結び目を解くつもりでした。今回は、目に見えないおじさんの手に私の手を添えるようにして風呂敷包みを開けました。

中から出てきた小さな木箱。おじさんの手作りらしいそのていねいな箱のフタを開けると、中には手紙らしい物とともに小袋が入っていました。やはりまずはおじさんの言葉を、と思い、封筒を開けました。中には和紙の便箋に美しい筆字で書かれたものが入っていました。

チーちゃん、いや千尋君、君がこれを読んでいるということは、私はもうこの世にはいないのでしょうか。でも、どうか悲しまないでください。私はもう十分に生きて存分に生き抜いたと言ってよいのです。私自信に後悔がないのだから、君に悲しまれるのはかえって辛い。できることならば、笑顔で送られたいが、それは先立つ者のわがままかな、やはり。でも、ほんとうにできればそうしてほしいです。私は、千尋君の向日葵のような元気な笑顔が大好きでした。おじちゃんだったために落ち込むことがありましたが、そんな時

は決まって君の笑顔に救われていたんだよ、ほんとうに。改めて、ここで「有難う」を言わせておくれ。おじちゃんは君が大好きだった。ちよつと古い言い方をすれば「戦友」みたいにしていました。勝手にご免ね。でも後悔は、まったくくないんだよ、おじちゃんには。千尋君と同じ時間をいづらか共有できた幸福に、心から感謝しながらエンマ様の待つあの世に旅立ちます。だから、またいつか！とは言えないけれど…ネ！千尋君は、まだまだこれからトキのことをよろしくね。もう専門的な勉強もできる年齢だし、君なら大丈夫！あんな小さい頃から「トキ、トキ」って言ってたんだし、何よりも大切な「心」をもっている人だ、君は！大丈夫、大丈夫…。

改めて、おじちゃんはこれから旅立ちます。今は、いつ何時、その瞬間が訪れてもおかしくないらしい。でも不思議にあまり恐ろしくないんだ。やり残したことは、そう多くない。

トキの生命も安定してきているしネ。後を託せる君たちがいてくれるのが何よりだ。勝手ながら、後は任せたぞ！ チーちゃん！

最後に：一つだけ残念なのは、君の結婚式で、「高砂やあゝ」と唸れないことかなあ？！
チーちゃん、これからもトキとともに健やかであれ!! 祈念。

手紙を読む途中から、もうぼろぼろ涙がこぼれてしかたありませんでした。おじさんの、トキに、そしてこの私自身にも注がれていた愛情の深さに強く感動するしかありませんでした。心の奥底にぽっかりと大穴があきそうなのを、懸命にこらえる私がいきました。しかし、言うまでもなく、めそめそしているばかりの私の姿など、おじさんは見たいとは思わないはず、と自分の心にムチを入れました。今はただ、おじさんから渡されたバトンをしっかりと握り直して走り続けるのみ、そう心に決めました。

私は、まだまだ若輩ですし、おじさんのようにきびきびとは動けません。しかし、トキや自然を大事に思う気持ちは、おじさん譲りで、誰にも負けるつもりはありません。これからさらに、専門的な知識や技術を身につけて、トキを守るリーダーになりたいと心に決めました。おじさんも含めた先人の努力に学ぶとともに、若い感性を張りめぐらせて、新しい道を切り開く力に変えていくべきです。トキとの、自然との共存。それは重要でありながら、簡単には進まぬ大きな課題です。心よりそれを願う人々の力の結集が必要なのだと強く思います。

近い将来、私自身、多くの心ある人々の先頭に立つリーダーとして、トキをはじめとするさまざまな生き物を守っていく理想を胸に一步一步着実に歩いていきたいと思っています。「おじちゃん、それでいいんだよね!」天国でおじさんは、きつと「うん、うん。」

とうなずきながら、優しくほほ笑んでくれて
いると思います。木箱の中の小袋の中には何
が入っていたかという、短冊のような小さ
な紙の束がぎっしりと詰め込まれていまし
た。その一枚一枚には、長年にわたるトキと
の結びつきの中で気づいたり、調べてわかっ
たりしたトキの生態についてのメモがびっし
り書かれていました。言わば、おじさんお手
製のオリジナルトキ辞典とでもいえそうな物
でした。それは、ある意味では、私の人生の
スタートラインにもできそうな、この上ない
すばらしい贈り物でした。この世にただ一つ
しかないトキ辞典を胸に、おじさんの遺志を
継ぐ私の道が、これから始まります。常に自
然体だったおじさんを見習い、一歩一歩着実
に歩いていきたいと思っています。そして毎
年お盆には、おじさんの墓前に良い知らせを
もっていけるよう頑張りたいと思います。そ
の時には、やはり互いに一杯酌み交わすこと

になるでしょう。今は、その場面が楽しみで
もありませんが、トキの話題で盛り上がりすぎ
て二日酔いにならないよう、特に私は十分注
意しないと…。とは言え、きつと二人とも、
翌朝こめかみの辺りをさすりながら、「ウゝ、
トキのことだどいつい盛り上がってしまった
ていかなあ?! ウゝ。」となってしまうの
でしょう。「くわばら、くわばら。」と、今は
一応言っておきましょう。

「ねっ、きつとそうだよね、おじちゃん?!」
天国で笑っているおじさんの顔が、はつきり
と見えるような気がしています。



佐渡 Kids 生きもの調査隊



Kidsのお米は自然栽培（無農薬・無肥料）で育てています。皁月の青空のもとで田植えです！



今年は4月から活動！ 畦塗りと種まき



6月、除草機を使って草とりをします

「佐渡 Kids 生きもの調査隊」は、佐渡島内の小学3年生から中学生を対象に、畦ぬりから米売りまでの米づくりの一連を体験し、お米のことや生きものについて、そして田んぼ・生きもの・人とのつながりについて学んでいます。

また、他地域の子供たちとの交流を通して、その土地の文化や田んぼ、生きものについて学び、地元である佐渡のことを考える活動を行っています。

Facebook で活動公開中！



佐渡 Kids 生きもの調査隊

検索





米づくりの体験をイラストと日記で表現して、地産地消フェスタの店頭で販売！



田んぼで暮らす生きものについても学びます



夏は、涼しい川にでかけて生きもの調査！

Kidsによる米づくりの活動舞台は、田んぼだけではありません。お米を育てるだけでなく、食べてもらうまでが「米づくり」です。大事に育てて収穫したお米を、佐渡市地産地消フェスタで販売しました。どのように宣伝したらお客さんが興味を持ち、買ってもらえるかなど自分たちで考え、米づくりレポートを掲載した「田んぼ日記」の配布や看板の制作、お店の飾りつけまでKids自らが考えて行いました。販売する米袋には、Kidsが描いたイラストがはられています。Kids米は大人気で、今年も完売御礼となり、自分たちのお米をお届けできた達成感で大喜びでした。



トキと暮らす島

生物多様性佐渡戦略

【基本理念】

生物多様性が育む佐渡の豊かな自然と暮らしを保全・再生する

佐渡で暮らす私たちと多くの生きものが共生する環境は、長きに渡り培われてきた豊かな自然、歴史、文化について市民一人ひとりが「知る・守る・使う」ことによって、保全・再生されるものです。

この「知る・守る・使う」に対応した3つの基本目標を設定し、積極的に推進する施策を定めています。

知る

「佐渡の生物多様性豊かな環境を市民一人ひとりが理解する」

私たちの健康で豊かな生活は、自然から多くの恩恵を受けている事を自覚することが大切です。将来に渡って佐渡の生物多様性豊かな環境を保全・再生していくためには、まず、私たち一人ひとりが佐渡の環境について十分理解し、後生に渡って継承して行くことが必要です。

佐渡市の取組み

- ・生物多様性に対する市民理解の促進
- ・組織・団体間のネットワークの構築
- ・企業CSR活動の参画促進
- ・大学等との連携による人材育成の促進

自分が出来る範囲で
やってみるのじゃ！



守る

「生物多様性の損失を食い止め佐渡本来の生態系を回復する」

私たちは生活の安全性や効率化のもとに様々な開発を進めてきました。結果、佐渡各地の自然環境に依存し生息していた在来の生物は住みかを失い、その個体数は減少してきています。今後、生物との共生を図る整備を進めなくてはなりません。

また、佐渡には本来生息・生育していなかった生物が持ち込まれ、佐渡固有の生物相と生態系に対する大きな脅威となっています。深刻化する前に、適切な対策を実施し、生物多様性の損失を食い止めなければいけません。

佐渡市の取組み

- ・ 在来種の保全・保護
- ・ 生態系に悪影響を及ぼす生物への対応強化
- ・ 多様な生物が生息・生育できる環境の保全・再生

使う

「生物多様性の恵みを持続的に享受する地域社会を構築する」

佐渡はG I H A S（世界農業遺産）に認定されました。佐渡の農村文化や伝統芸能、里地・里山の美しい自然景観を次世代へ継承していくためには、持続発展的な農業農村の活性化が最重要課題となっています。

佐渡で育まれる生物多様性の恵みを持続的に享受しながら、活力ある経済・社会活動を実施し、若者が定住・定着できる社会づくりを行っていくことが現代の私たちに求められています。

佐渡市の取組み

- ・ 環境と経済が好循環する産業の育成
- ・ 環境負荷の少ない循環型社会づくりの促進

「トキと暮らす島 生物多様性佐渡戦略」より 詳しい内容は、佐渡市ホームページまたは冊子をご覧ください。
トキと暮らす島 生物多様性佐渡戦略 <https://www.city.sado.niigata.jp/admin/vision/biodiversity12/pdf.shtml>

編集後記

2019年は、トキの野生復帰が新たな段階に移行していることを表す出来事がありました。9月26日に片野尾地区で行われた、トキのハードリリースです。

ハードリリースとは、トキを箱に入れて目的地に運んで放鳥する方法です。これまで、秋篠宮ご夫妻をお招きして開催された第1回放鳥、眞子内親王殿下ご臨席のもと開催された「トキ放鳥10周年記念」の放鳥と、記念すべき節目の式典の際に行われてきました。しかし今回は式典ではなく、地元の子どもたちや農家さんたちが参加して行われました。

今回のハードリリースの主な目的は、佐渡島内にトキが400羽以上生息する中で過密になっている地域がある一方、トキのいない地域もあり、島内でトキの生息域を広げたいことにあります。

放鳥場所となった片野尾は、1970年代に日本産のトキが最後に生息した地区で、トキの野生復帰事業が検討され始めたころから、「再びトキの姿を見たい」と、環境保全型農業やビオトープづくりに取り組んできたところでもあります。環境省は、今後も訓練ケージから直接放鳥するソフトリリースと併用して、トキに来てほしいと願う地区を対象

にハードリリースを行う予定だそうです。

また、将来的には島外での放鳥も考えられます。最終的なトキ野生復帰の到達点は、かつてのように日本中にトキが生息することです。実際、日本中にトキが棲める環境になれば、どんなに素晴らしい事でしょう。そして、佐渡の取り組みがそのためのモデルになることを目指し、これからも力を合わせていきたいと思えます。

今年度の佐渡生きもの語りは川柳・短歌部門²⁹作品、イラスト部門11作品、イラスト川柳部門17作品、フォト部門9作品、フォト川柳部門2作品、エッセイ部門2作品、合計³³作品と多数の応募がありました。6名の選考委員によりノミネート作品が選出され、11月3日のJA佐渡ふれあいアッセまつりと11月10日の環境フェアの来場者の人気投票によって、最終的にグランプリ作品と準グランプリ作品が決まりました。受賞された皆様、おめでとうございました。そして、作品をお寄せくださった皆様に心から感謝いたします。

一般社団法人 佐渡生きもの語り研究所

理事長 仲川 純子

佐渡生きものの語り作品集 2019

発行日 2020年3月

発行 佐渡市・朱鷺と暮らす郷づくり推進協議会

編集 一般社団法人 佐渡生きものの語り研究所

イラスト Kanako (ドクターイキモン)

「トキと暮らす島 生物多様性佐渡戦略」より

写真 川口昌紀・齋藤真一郎・大石麻美・(一社) 佐渡生きものの語り研究所

印刷・製本 新穂印刷

お問合せ先 〒952-0103

新潟県佐渡市新穂潟上1101-1 トキ交流会館2階

TEL 0259-22-2658 (FAX兼)

<http://sado-ikimonken.jp>

E-mail : ikimon@sado-ikimonken.jp

ノミネート選考委員(順不同・敬称略)

大石 惣一郎 佐渡棚田協議会 会長

澤栗 浩明 環境省 佐渡自然保護官事務所 首席保護官

本間 皓 JA羽茂 組合長

金子 聡 佐渡市役所 農業政策課 課長

真田 和男 朱鷺と暮らす郷づくり推進協議会 会長

大井 克巳 (一社) 佐渡生きものの語り研究所 理事